

ロータリアン誌 二〇日号より

R-会長クリフ・オード・ダクターマン

職業奉仕月間に際し

「四つのテスト」

The 4-Way Test

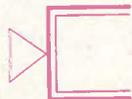
Clifford L. Dochterman
President, Rotary International

米国・カリフォルニア州アナハイムに、ロドニー・ミバッド、コールソンというパストガバナーがいました。今は故人となりましたが、バッドは本当にロータリーを愛し、ロータリーに生きて人間として、彼を知る人々の語り草となっています。

仕事は広報の専門職で、世界最初のディズニーランドの企画と建設に携わったこともあります。

生前バッドから聞いたことで、今でも心に残っている話を1つ紹介します。

バッドはカリフォルニアでは名門の男子系某大学の理事も務めていました。この大学とやはりこの州では名門の女子大学との合併話が持ち上がった時のこと。当然、話を煮詰めるために何回も会合がもたれました。ところが肝心の点になると、いくら話し合っても意見が食い違ったまま、行き詰まってしまいます。



そのとき

この状態を見て、バッドはある時ひとつの決心をし、次回の会議の時に、机のうえに「四つのテスト」を置いたのです。そして「今日の会議では、この四つの質問に照らし合わせながら話し合ってもらえないだろうか」と切り出したのです。この提案は受け入れられ、「四つのテスト」に基づいて話し合いを進めた結果、この席でおたがい納得のいく合併協定がまとまったということでした。

おかげで合併は成功し、今日この大学はカリフォルニアだけでなく全米でも有数の名門校になっています。

職業奉仕月間に当たる今月、特にこの話を思い出します。今からちょうど60年前の1932年、

シカゴのロータリアン、ハーバート J. テーラーがこの「四つのテスト」を編み出し、当時の世界大不況の中で、経営危機に陥っていた会社を立て直す際の基本指針として使ったのです。

この指針は従業員を感動させ、会社再建に大いに貢献したと、テーラーは語っています。

1954—55年度に R I 会長となったテーラーは「四つのテスト」の版權を国際ロータリーに贈ってくれました。

時代の試練に耐えて

それから60年間ロータリアンをはじめ多くの人々は「四つのテスト」を信じて、事あるごとに、このテストに照らして身を処してきたのです。

「四つのテスト」

言行はこれに照らしてから

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

この四つの質問が時代の試練にどう耐えてきたか興味あるところです。事業においても専門職業においても、そして日常生活においても「四つのテスト」の意義は、1932年にハーバード・テーラーが、これを初めて机上に置いた時と全く変わるところはありません。

もし皆さんが日常生活で、考え、話し、行うあらゆることで「四つのテスト」をまだ使っていないとしたら、今こそバッドが示した模範を見習う時だと思えます。

(R I 指定記事)

米国国際開発局 ポリオ・プラスへ 2度目の補助金を授与

米国国際開発局(U.S. Agency for International Development—USAID) は R I のロータリー財団に対し、ポリオ・プラスプログラムへの補助金を2件新たに授与しました。2件の補助金合計額は、2,650,200米ドル。その内訳は、ナイジェリア向けに1,450,200ドル、インド向けに1,200,000ととなっております。

このUSAIDの補助金は、児童の生存と健康保持のために活動中の国際ロータリーを支援するために授与されたものです。現在世界の全ポリオ症例件数の半分以上は上記2カ国で占められています。補助金は両国のポリオ追放活動強化のために使われます。

USAIDは1987年にも、ポリオ・プラス支援のため、ロータリー財団に600万ドルを授与したことがあります。

このことは米国政府がロータリーのポリオ撲滅活動を引き続き強力に支持している事を示すもので、同時にまた、ロータリーのポリオ・プラスの持つ大きな影響力を米国政府が認めていることでもあります。

中国で2つのポリオ・プラス事業が予定通り進行中です。1つは、経口ポリオ・ワクチン製造工場の建設で、今年8月に起工され、1994年8月までに完成の予定。ロータリー財団は同工場建設のため、1,500万ドルのポリオ・プラス補助金を授与しました。もう1つは、中国にポリオ撲滅実現に向けての人材養成と進展状況観察のためのセンターを建設する事業で、R財団からは899,000ドルのポリオ・プラス補助金が支出されます。

(R I ポリオ・プラス・ニュース VOL. 4 NO. 4 より)

ロータリーの心・職業奉仕の実践



RI 職業奉仕実行グループメンバー

戸田 孝(八尾)

コルマールRC(仏)の名誉会員故シュバイツァー博士(医師)は「政党とは別の一真に人間のな人たち、真の人間として行動しようとする人たちの理想にかなう組織がいつか創設されると思っていた。ロータリーの中にいると私たちの文明の精神性を高め、世界を破滅から救おうとしている人たちの中にいると感じます。私は皆さん方の一員です。私は皆さんの偉大で崇高な目標を信じています」とロータリーの存在を高く評価している。

故平沢興PGは「生涯を奉仕に捧げたシュバイツァー博士は晩年「生命への畏敬、なる思想に到達したが、私がポール・ハリスの尊さに抱く情感は、博士の畏敬の心に通じるものである」と「ロータリーの心」の文に記している。

ポール・ハリスは「河の源流はただ一つの泉によるものでなく、幾百の溪流がそれぞれ山肌を流れて水路に注ぎ、水かさを増して大河を形成するに到るのだ」と、ロータリーの原点は各ロータリアン個人の心の中にあることを示している。そして各ロータリアンの心の高まりを具現するには、天職一使命感に裏うちされた自己の職業を通じて奉仕することが根本であると教えている。

故井坂孝PGは「人のために尽くす道はいろいろあるが、日常不断にできるのは、自分の職業を通じてのサービスだ。その実践こそロータリーの本領である」と分かりやすく語っている。

今世紀科学技術の驚異的発達、人口の急増、地球環境の悪化…急速な変貌の中でロータリーはそれに対応し得る柔軟な思考と、厳しい局面に敢然と立ち向かう覚悟と行動が必要であり、

世界とともに変化生長しなければならない。その根底にあるものは、

- ①自己の利益を得ようとする欲望と、一方では他に尽くさねばならないとの義務感が常に心の中で葛藤を繰り返している、この争いを調和させようという人生の哲学がロータリーである。
- ②天職との認識にたつて理想主義と現実主義が混然として一つに溶けあい、調和を保つ実践をロータリーから学ぶこと。
- ①②を基盤として、
- ④自己の職業に正しい認識をもち
- ⑤自己の職業に誇りと感謝の心をもち
- ⑥自己の職業倫理と道徳性を高め他との共生をめざす。

世界にひろがる指導者群たるロータリアンの心の高まりを柱に実践の効果をより高めるため

RIは16の実行グループを組織し、世界より委員を指名した。職業奉仕実行グループの目的は、

- ①職業奉仕活動の意義を再確立していく中で、活気を生みだす。
- ②地域社会の商工会議所等とRCの相互関心のある事業については、両者間の協力を増大する。
- ③地区ガバナーを援助して、地区職業奉仕委員長による年間報告をより質の高いものにする。
- ④個々の職業奉仕にとって実行可能な手段としてロータリー・ボランティア計画(RVIA)への参加を促す。
- ⑤地区およびRC内での職業奉仕月間を促進する。

職業奉仕はロータリーの根幹であり特徴である。私たちは将来を見通してあらん日々のために使命感をもって自己を貫き実践することで大きく社会に貢献でき、ロータリーの本領を発揮できるのである。

(第2660地区PG)

職業奉仕はロータリーの 専売特許ではない

『ロータリーの友』顧問

伊東 眞純(中 津)



熊本の故小田一昭PGは職業奉仕の解説によく「忠恕」を使われました。私は地区協議会で「職業奉仕つまりは仁義礼智信」と標語のようなことをいったことがあります。職業倫理は儒学の教理とも共通するものがあります。私は職業奉仕は自分の現在従事している職業を天職と心得て誇りを持ち、仕事に最善を尽くし、自分の関連する職域の道德水準を高め、職業を通じて社会に役立つことであると理解しています。

職業奉仕は他の奉仕部門と異なり、ロータリアンが直接自分自身を奉仕の対象としています。そのため具体的な奉仕の実績を評価することは困難です。元来すべての奉仕は、その実行で喜びを体得し、結果として社会の弱者に対する喜捨という功德を積み上げていただき、同時に自己研さんにもなったことを感謝すべきものです。

職業奉仕のシンポジウムや地区協議会での討論の時にちょっと気になることは、職業奉仕はあたかもロータリアンのみが実行しているかのように錯覚されている方が若干いることです。もちろんロータリーの職業奉仕はロータリーの奉仕活動の中で基本となるものです。しかしロータリアン以外の方でも素晴らしい職業奉仕を実行されている人々が私共の地域社会には大勢いるのです。私共の身近に接する職業で伝統的技術を身に着けた、大工・左官・鍛冶・料理等の職人さんの中には、立派な技術を生かし、職業奉仕を一生を通じて実行されている方々がいるのです。

自由主義経済の社会では利潤を上げることが至上命令です。管理職の方々が職業奉仕や社会奉仕を経営の中に取り入れ、奉仕の理想を職場に浸透させることは、わが国では組織が大きくなればなるほど難しいのが実情のようです。

個人の行動が直接仕事の現場で実現できる職人の社会では職業奉仕という言葉はありませんが、私共が追求している職業奉仕を孜々として終生実行し、いささかも節を曲げない人がいます。これらの優れた職人は、自分の良心に恥じない成果を残すことに懸命です。自分で納得できるまで妥協しない姿勢は、時に頑固者と受け取られることもあります。自分の仕事に関しては自分自身が満足するまで最善を尽くす、その結果として注文主のため、社会のためにも有益なのです。中でも真に職人魂に徹した職人は自分の技術を惜しみなく弟子に伝える努力もしているのです。このような職人さんが私の周囲にも数人います。企業秘密が経営上極端に守らねばならない実業の社会では、職業奉仕にいささか自家撞着を感じます。

自分の良心をごまかせないこのような職人かたぎの中に職業奉仕として大いに学ぶことができると思います。

ロータリアンは謙虚にすべての職業人に学ぶ態度が大切です。思いやりと同時に自分の良心に恥じない行為を守り続けることも職業奉仕の根源にかかわることだと、職人かたぎに接したとき、痛感した次第です。(第2720地区PG)

※印は横組み目次「ロータリー用語早わかり」の欄を参照

エコロジーとエコノミーの共存

長崎オランダ村「ハウステンボス」でのケース

第2740地区パストガバナー 富永 雄幸 (佐世保南)

長崎県県央部に、紺青の波静かな320km²の美しく広い大村湾がある。針尾瀬戸を、佐世保湾で外洋と連なっている。この一角に、中央に高い塔のそびえる「ハウステンボス」の街が本年春出現した。本稿は、この海洋リゾート施設の紹介ではなく「エコロジーとエコノミーの共存」を主張し、「今この街は千年の時を刻み始めた」と力強く歩み出した人々のコンセプトと手法に感銘を覚えた、専門家でない私のレポートである。

1980年初頭から大村湾に「バイオパーク」「長崎オランダ村」の事業が、夢と信念に生きる若き青年実業家、神近義邦氏の手で海を正面とし、海岸線、水辺の保全、徹底した排水処理、オランダ様式の建物、れんが路床、多くの樹木と草木、復元された大航海時代の帆船係留等、エキゾチックでまた、エコロジカルなリゾートが生まれ来訪者は6万人を越す日もあり、交通渋滞は社会問題とさえなるほどであった。

オランダも全面的に協力

長崎オランダ村の対岸、佐世保市針尾町に工業誘致に失敗、15年以上放置され荒地と化した175haの造成地があり、長崎県が1986年その利用を当時44歳の神近社長の手へ託し、新しいウォーターフロントの創出が計画された。

不毛の土地に豊かで快適な環境をよみがえらせ、開発が環境破壊ではなく、人々によき環境を提供することとするコンセプトに、オランダ

のベアトリクス女王、王室および政府の全面的協力、長崎県、佐世保市等自治体、30社を越す国内有数各種企業、地元企業等の賛同を得て事業が開始される運びとなった。事業展開に際し、研究討論、シュミレーションが繰り返され、種種の手法が東京ディズニーランドの約2倍、152haの広大な土地に施されたのである。

建設基盤整備・土壌…ハウステンボスの建設基盤は大規模造成工事の例にもれず、造成20年後もわずかな雑草を見る土質であったので、20万m²の土を加えこれに水分調整材、ピートモス、パークたい肥(木の皮)などを加えかくはんしてバクテリアなど地中微生物の土壌改良作用に期待し、空気と水に富む有機質の土壌をつくり、今日では活発な炭酸同化作用が見られる緑豊かな樹林がこの街を包むほどになっている。

水資源も有効活用

水環境…水資源も有効活用上、エコロジカルの理念が貫かれている。上水の不足時に対応するため、日量1,000トンの「海水淡水化プラント施設」を持ち「中水道システム」を完全に整備している。下水道施設では2次処理でBOD(生物化学的酸素要求量)11ppmに処理され、さらに高度な3次処理で5ppm以下の中水とし、トイレ洗浄水、植物、草花などへの散水、空調冷却補給等に使用される。再利用されなかった日量740トンの中水は、バクテリアの自然浄化作用、保有水の確保のため地中1m、延長2kmに及ぶ浸透設備で大地にかえされる。

長崎オランダ村
「ハウステンボス」
の運河に浮かぶ船
と風車小屋。



かくして1日5万人を上回る来訪者の生活排水はこの街で処理され、ほかへは全く排出されない。

エネルギー、コジェネレーション…熱エネルギー源は価格的には問題があるが、無公害に近い天然ガスと電力を使用している。さらに光ファイバー等通信施設、電気、蒸気、冷水、上水、中水、汚水等は3.2kmに及ぶ共同溝が地下に構築され常時管理制御されているのも環境保全のための努力である。

海・運河との接点…seaborn KINGDOM HOUSE TEN BOSCH の街は、美しい大村湾の海辺と150棟以上のオランダ建築様式の建物、緑豊かな植物、色鮮やかな花園、そして敷地内6kmにわたる運河がよくマッチして素晴らしい。かつての造成時に造られた延長1kmのコンクリート製岩壁の外壁に、岩石の石組みがつくられ生まれ変わった。大村湾の潮の干満を2重の水門で調整し、いつも緩やかな流れの水をたたえる運河の石垣にプランクトンや海の小動物が住み、海も浄化され、今では大きな「さより」「ぼら」が群れ泳ぐ水辺となっている。この水との接点に膨大な量の岩石を運び、潜水夫まで動員して石組みがつくられたのも素晴らしい英知によるものであろう。土壌改良にも、ウォーターフロントにも、運河にも生態系の中で自然

浄化に大きな力をもつバクテリア、プランクトン等の微小動物たちの活躍の場に十二分の配慮がなされているのにも驚嘆させられる。まさに「地球にやさしい」開発そのものである。

廃棄物処理も徹底

その他、廃棄物処理にも持ち込み物品規制管理、資源回収、焼却処理、コンポスト処理等、万般の手法が環境保全のため講じられている。

荒れ果てた土地を、自然あふれる豊かな環境にするため「ハウステンボス」第1期工事約2,300億円の1割以上の280億円余の巨費を環境保全、あるいはその維持のため投じて「エコロジーとエコノミーの共存」を旗印とし、Indicatorとして力強く進む神近社長の姿には美しささえ感じられる。松田崎一長崎オランダ村代表取締役はロータリー歴27年の長崎RC会員であることもわれわれの誇りである。1991—92年度2740地区大会を、オープン早々の本年4月この街で開催し、神近社長の開発コンセプトを聞き、また各自が自分の目でみる機会に接したが、ロータリーが環境保全をプログラムの一つとしている今日、環境保存的手法にとどまることなく、少々経済的負担が重くとも、地球環境・宇宙環境保全に配慮し、さらに豊かでよき環境づくりをめざす心構えが必要なときと考えている。

環境保全に取り組む

—ロータリアンとその企業—

“地球は人間を乗せている……”に始まる
だれかの詩があった。この掛け替えのない
“地球号”を守るために、多くのロータリ
アンとその企業の方々が日夜、環境保全に

努力されています。ここに4人のロータリ
アンにご執筆いただいた事例をご紹介します。
します。続くアンケート「環境保全と職業
奉仕 事例」と合わせてお読みください。

新しい価値の創造を

下水道汚泥からレンガ再生

大阪 谷川 正

今や、わが国はだれもが認める経済大国に成長いたしました。その半面欧米諸国に比べ、社会資本整備の遅れが指摘されていることは、ロータリアン諸氏もよくご存じの通りです。

その中でも、特に遅れているのが下水道施設であり、平成2年度末での普及率は約44%です。
(注：英国95%、米国73%、西独91%、カナダ74%)

昨年の日米構造協議でも指摘され、政府としても西暦2000年には、これを70%まで引き上げることが閣議決定されております。

下水道は汚水中の汚濁物質を除去し、きれいな水に浄化して放流するため、その整備とともに汚濁物質(汚泥)が大量に発生し、その処分も社会問題になってきております。その発生量は年間約200万³にも達し、さらに年々増え続ける一方です。そのうち約80%強が埋め立て処分されておりますが、処分地が少なくなってきたこと、および環境保全の面から、各自治体とも他府県への投棄依頼が、難しくなってきているのが現状です。



埼玉県新河岸川処理センター正門前に
使用されたインターロッキングレンガ

当社は、下水汚泥の焼却設備を製作しておりますが、その焼却灰を、これまでのように投棄処分するのではなく、資源として見直し、再利用できないかという命題に取り組んでまいりました。

その結果、舗道敷などに使われているインターロッキングレンガに再生させることに成功いたしました。このインターロッキングレンガは①砂目地を使用するため雨水を大地へ浸透させ地盤沈下が防げる。②街路樹の活性化が図れる。③舗道に水をまらげできない。④都市街路の美的景観が向上するなどの優れた特徴をもっているため、道路舗装材料として、近年、その需要が大幅に伸びてきております。さらに投棄処分地難から解放されるとともに、処分費も不要になるなど、私どもの開発したこの下水汚泥からインターロッキングレンガに再生させる設備は、

世間の評価も高く、お客様にも大変喜んでいただいております。

この設備は、既に、東京都下水道局殿、日本下水道事業団殿（埼玉県荒川右岸流域下水道新河岸川処理センター）の2カ所に納入し、レンガ日産3,500個の実設備として稼働しております。さらに東京都流域下水道本部殿の北多摩処理場向けにも現在建設中であります。

当社は、「熟技術を核として、新しい価値を創造し、これを通して社会に貢献する」ことを経営理念としております。これまで産業廃棄物として投棄処分するしか方法がなかった厄介ものの下水汚泥を、都市街路の再活性化に役立つインターロッキングレンガに再生させ、時代の要請でもある廃棄物リサイクルの実践を通して社会に大きく貢献できていることをうれしく思っております。

また、地球環境の保全という大命題に対し、地球の温暖化、酸性雨などの根源ともいわれているもののひとつに窒素酸化物（NOx）があります。この窒素酸化物の低減も当社の使命と心得て、低NOxバーナの開発にも取り組みました。NOxの物性、発生メカニズムなどの基礎調査に始まり、低NOx化に最も効果的な二段燃焼と排ガス循環方式とを軸に、低NOxバーナの開発を進めました結果、鉄鋼加熱炉用として従来250～260ppmあったNOxを40～50ppmへと、約80%もの低減化を達成する直火バーナを開発することができました。私どものユーザー各位にも高い評価をいただき、既に約8,000組を超えるバーナをお納めし、間接的ながら大気汚染の浄化にも貢献できていることを大変誇りに思っております。

以上、職業を通じて環境保全に貢献しております一端をご紹介させていただきました。

（第2660地区・大阪府・工業炉製造）

人間の生き方の問題

化学薬品ゼロの無添加石けん

若松 森田 光徳

18年前まで、弊社の主力商品は合成洗剤で、

地球にも、体にもやさしい化学薬品ゼロの無添加石けんの輪を全国に広げたいと出版された森田光徳会員の著書『自然流せっけん読本』の表紙。

〒107 東京都港区赤坂7-6-1 農山漁村文化協会
発行 定価1,200円



しかもドル箱でもあった。それを捨てて元の石けん屋に戻ったのには、理由がある。

1971年、当時の国鉄から「無添加粉石けん」の製造依頼を受けた。その試作品を家に持ち帰り、衣類を洗濯をしているうちに、以前から私を悩ましていた体の湿疹がなくなった。皮膚科に行っても治らなかったのが、わずか5日間下着を洗っただけで、かゆくてたまらなかった赤い湿疹が治ったのである。

目からウロコが落ちるとは、このことだ。洗剤屋が洗剤による皮膚障害に気がつかなかったとは！ それ以前に私は、合成洗剤が人体や環境に有害という本を読んではいたが、自分で体験して初めて、本当だとわかった。

だから、もう自分の家で使用しない合成洗剤を、今まで通り知らぬ顔をして、他人さまに売るわけにはいかない。1974年に意を決して、有害と思われる商品は、すべてやめ、化学薬品ゼロの無添加石けん一本に切り替えた。

しかし、いくら無公害で体に良いと説明しても、消費者や流通業者の関心は薄い。「無添加といいながら、蛍光剤を使用している」というデマを流されたり、売り上げ不振で何度も倒産の危機に遭ったが、幸運にも乗り越えてきた。

これから21世紀にかけて、私たちが直面する最大の課題は、環境問題である。まず自分自身が、どんな小さな汚染にも手を貸さないという日常生活が大切だと思う。無農薬栽培の米や野菜、果物を求める人が増えているが、それと同じ関心を洗剤や石けんにも振り向けていただきたいものだ。

「政府が許可しているものを使用して、なにが悪いのか」という西欧の権利意識だけでは、環境問題は解決しない。これを使用したら、だれか

に迷惑がかかるのではないか、困る人がでるのではないかという、東洋の道徳が必要になってきている。四つのテストの「みんなのためになるか どうか」だ。

私は18年間、体や地球にやさしい無添加石けんづくりをやってきた。正直いって大手メーカーの強力な宣伝力に支えられた合成洗剤や、色のきれいな香料の強い、添加物だらけの化粧石けんが消費者受けをするから、悪戦苦闘の連続である。だが私は自分の商売気を離れても「健康な体ときれいな水を守る」ために、無添加の石けんを！ と願わずにはいられないのである。地球は人間だけのものではない。動物も植物も魚介類すべての、生きとし生けるものが共生しなければ、人間もまた生きてはいけないのである。

便利で、楽で、安上がりばかりを追及した経済的合理性が、わずか三十数年で環境を破壊してきた。そのツケを子孫に残してよいものだろうか。つまるところ、環境問題の根本は人間の生き方の問題であろう。(第2700地区・福岡県・油断工業)

あご 英虞湾の汚染防止に

しによう 尿尿収集と処理船の建造

志摩 宝門 孝雄

ちりばめられた島々の美しさ故に、松島と並び称される英虞湾は、また、真珠のふるさととも呼ばれている。

きらびやかな風光と静かな波の下にも、いつしか湾岸4カ町からの生活排水や海辺に接する産業施設からの尿尿・廃棄物などによる汚染が

間崎島に陸上げされた汚染防止に寄与するバキューム車



蓄積され、真珠養殖を業としている人たちに深刻な問題となってきた。

英虞湾に浮かぶ数々の島のうち間崎は人口約300人、戸数約100戸の住民を有する唯一の島であるが、交通の不便さ故に尿尿の処理はもとより約70基ある浄化槽の管理など、衛生面においても不備な点が目立ち勝ちであった。昨年11月ごろから区長をはじめとする同島役員が、度々当組合に対して窮状を訴えられ、協力を要請されたのを機会に、採算上の危険を承知の上で尿尿収集を引き受けることとし、区長以下地区役員とともに全浄化槽設置家庭を訪問して、浄化槽管理の必要性を説明したところ、ほぼ100%の理解と協力を得ることができた。

さらに同島役員から町当局に対し実情を陳情したところ敏速な反応を示され、バキューム車および付属器具一式が購入され稼働することになったが、これは行政当局と住民、関係業者が目的意識を共にして努力したたまものであり、これによって同島から排出される尿尿汚水は完全に阻止され、当組合として英虞湾の汚染防止にいささか寄与できたものと自負している。

志摩の住民の生活は何らかの形で海とかわりを持ち、また、この海を名実ともにリゾート立地の中心とするならば、自らこの環境を保持するべく関連業者の努力、住民の意識向上、そして行政の指導が必要であるが、英虞湾を抱く4町のうち志摩町は、特にその熱意が高く、かねてから町長の提唱による英虞湾浄化対策事業として湾内の汚泥浚渫、漁場保全、生活排水対策などを行っている。とりわけ当組合にとって関心が深いのは、町長就任公約の中にある尿尿処理船の建造である。

尿尿処理船については、係留基地の問題でとん座しているやに聞きおよんでいるが、当初、非公式ながら当組合に建造依頼の打診があり、湾内汚染原因の大半を成している臨湾産業施設からの汚水収集を通じて、環境保全に貢献するべく、相当程度の経済負担を覚悟して、打診に応じて、既に造船設計書が完成している。これは湾内の景観にマッチするよう外観はクルーザーに擬したものである。

今、大気汚染をはじめとする環境破壊に対し

て、全地球的な対策が叫ばれているが、これはわれわれ一人一人が問題を直視し、加えて行政の強力な指導の下に一致協力しなければ解決は難しかろうと、今回の行動を通じて、つくづく感じたところである。

(第2630地区・三重県・衛生設備管理)

まず ひとりから……

霞ヶ浦情報センターを設立

玉造 荒井 一美

ひとりの存在はこの大きな地球上で、ある面では微々たるものだと考えられています。

しかし、この微々たる存在が無関心という立場に立ち、複雑に絡み合うことにより、地球の環境に与えている影響は計り知れないものがあります。

私の住まいは霞ヶ浦湖畔にあり、少年時代は夏になると河童^{かっぱ}と呼ばれ、そのきれいな自然の恵みを全身に浴びていました。いつしか湖水は美しさを忘れ、人々を遠ざけるようになってしまいましたが、その現実、毎日、容赦なく目に入り、鈍感な私でさえも無視する訳にはいかない状態になっていました。

汚染の原因は複雑多岐にわたっていると言われ、現在は4割が一般家庭から排出される排水にあるとされていますが、微々たるものの蓄積が最大の原因となっているのが現実です。

以前、私は仕事柄、住宅の設計に携わることもあり、雑排水対策をする目的で、心ある数社と生活排水対策事務所連合会を設立し、職業を通して、一般住民への啓蒙運動をしました。しかし、無関心の壁に阻まれ十分な成果をあげることができませんでした。

その後、土浦青年会議所の霞ヶ浦委員会に所属し、霞ヶ浦浄化運動のメンバーとして、第2回水郷水都全国会議にも実行委員として参加する機会があり、その中で「全国の水を活かしたまちづくり」の事例発表を担当することになりました。資料収集をする段階において、霞ヶ浦に関するそれぞれ貴重な資料は分散されていて十分活用されにくい現実に直面せざるを得ませ

霞ヶ浦情報センターが毎月発行している情報紙「霞ヶ浦ネットワーク」A4判12～18ページ。

お年寄りから子供まで、幅広い層に親しまれるように編集された情報紙で、霞ヶ浦に関する環境問題のすべてが盛り込まれている。発行所 〒300 土浦市港町2-7-11-401 頒価1部150円



んでした。これらを活用し、あらゆる方面から総合的に取り組まなければ霞ヶ浦の問題解決には至らず、ますます遠い存在になることは明白で、この時、総合的な研究所の必要性を痛感しました。

こうした現状の中から、3年前、思いを同じくする人たちを中心に霞ヶ浦の環境問題を調査・研究し、資料・情報類を収集し、提供する民間シンクタンクとして「霞ヶ浦情報センター」が設立されました。

霞ヶ浦センターの主な活動は「霞ヶ浦ネットワーク」月刊、「霞ヶ浦研究」年報の発行、霞ヶ浦観察会、霞ヶ浦映像フォーラム、霞ヶ浦大学などの開催を通して、住民の交流の場や環境教育の場を設けるのをはじめ、個別科学の総合化に取り組んでいます。センターは各分野のボランティアによる運営委員会を中心に会費、寄付金、広告料などで運営されています。会員数は400人を超えるまでになり、玉造ロータリークラブの会員の多くは、既に会員としてセンターを支えていただいておりますが、もっと多くの人たちとのネットワークを確立し、きれいな霞ヶ浦にするお手伝いをして、次の世代へ伝えたいと考えています。

ひとり、ひとりの思いが、そして微々たる力が結集し、今、大きな力となりつつありますが、何分にも相手が大き過ぎますので、さらに拡大する必要があります。

社会奉仕を目指すロータリークラブのますますのご協力をお願い申し上げます。

まず、ひとりから……

そして、一歩から……

(第2820地区・茨城県・建築設計)

環境保全と職業奉仕 事例

前ページにご紹介したほかに、環境保全関連の職業奉仕の事例を、前年度の『友』地区委員とガバナー事務所に集めていただきました。

クラブで実施したもの、また、空カンや

牛乳パック、スチロール製トレイ、紙のリサイクル、再生紙の使用、植樹など、多くのクラブ会員が実施中の重複する活動は省略いたしました。1991年10月号、10～19ページも合わせてご覧ください。

経常利益の1%を緑基金に

○三条 榊 賢一（住宅用品販売）

ショッピングセンターやホームセンターなど96店舗の経常利益の1%を活用してもらい「コメリ緑基金」を創設、植樹、植物研究、花の育成など環境保全に努力するグループや個人に資金を提供、利益還元を図っている。

○いわき平東 田子正太郎（F・C全国総本部）

山を守る同好の士に呼びかけ、上三阪造林組合（40人）を結成、個人では困難な山の保全、造林、美林を通じて水資源の確保に貢献。

○福島 萩原英雄（金融取引）

花いっぱい県民運動に参加、各支店窓口で「街に緑を、窓辺に花を」をスローガンに季節の花鉢を来店客に贈呈。

○笠間 高瀬喜一（陶芸芸）

釉薬の廃液中には微量の重金属類の混入があるため、一旦容器に沈澱させ上澄液のみ放流、沈澱物は耐火容器に入れ加熱溶解させ、ガラス化し再利用している。

湿布薬の布を再利用

○桶川 村田四郎（接骨医）

毎日の診療で使う湿布薬の布は300枚と膨大になる。市販のものは使い捨てだが、当院では開業以来35年間、全部再利用するように患者さんに持ってきてもらっている。

○東京品川 大嶽俊郎（自動車部品製造）

年間300トンのフロンガス使用を合理化設備

により、従来の3分の1に減少させ、1993年からは代替ガスに転換すべく努力中。

○東京城西 小倉義人（高圧ポンプ製造）

鋳物工場の有害ガス（キューボラ）を考慮し電気炉に変えた。廃却した砂による地下水汚染防止のため、廃棄する砂処理プラントに投資。

○東京武蔵府中 土田昭一（特別クリーニング）

クリーニングの機械から化学薬品を外に出さない設備投資に億の金をかけた。会社見学の会員夫人サークルも大変勉強になったとのこと。

○東京練馬西 戸田一誠（仏教）

檀家が植木を処分する時は境内に移植、境内に花や実のなる木を植え市民や鳥を喜ばせる。井戸を極力保存し、地下水をチェック。



○東京江戸川 旗野次郎（市民防災研究）ビル火災の避難、初期消化に独特の方法を考案し普及に努めている。

○石垣 黒島 清（新聞発行）ゴミの分別収集について市民フォーラムを開催し、環境美化を図る意見書を市長に提出。

○横浜たま 本城庄五郎（園芸研究）花と緑、自然保護について市民の相談相手になって活躍中。

○高岡北 唐沢英夫（住宅資材配布）仕事上、水と関連があり「水と生活」についての講演や排水一般について市民に汚濁防止を啓蒙中。

○河北 岡田欣一（合金鋳造）会員が持ち寄ったアルミ缶などの廃品回収を一手に引き受け、整理、処分している。

○中島 高田正俊（新聞記者）清掃活動、植樹、植林運動などの記事の執筆を通じて、市民に環境保全をアピール中。

グリーンマークで緑化運動推進

○桑名 出口忠弘（ダンボール箱製造）ダンボール製造業界で製品にグリーンマークを表示、集めたグリーンマークに対し苗木を送り、緑化運動を推進。

○上野東 藤本久次郎（畜産）生ゴミを醗酵菌と高熱で飼料や有機肥料の素としてリサイクルする「ゴミラック」を開発。

○尾鷲 三鬼厚生（回漕業）魚類などの内蔵を漁業用飼料、農業用肥料に再利用している。

○大阪北 平川恵一（ボイラー製造）ボイラーの低 NO_x 化の研究で画期的開発に成功、大幅な NO_x 発生抑制に貢献。

○小浜 西浦祥史（土質工学）㈱SCを設立、工場の廃物であるスペントカーバイト（カーバイト滓=SC）を利用して土質安定処理に貢献。ヘドロにSCを混ぜることで従来の土以上の良質土となり、SC工法は消石灰系のため動植物にもやさしい。

○鯖江 武田哲夫（林業）「食、みどり、水を考える会」を設立、農漁村



の生産者と消費者との話し合いの場を提供。

○堺西 内本英策（漁網防汚剤製造）養殖漁業の漁網防汚剤を従来の有機錫系薬剤から人畜無害の Silicon 系に転換。養殖そのものによる環境保全をも合わせて指導中。

スギ花粉情報を提供

○西脇 岡田等（耳鼻咽喉科医）自宅でスギ花粉の飛散を観測し、スギ花粉情報を市役所、市内スーパーに設置している。

○福山 岩井浩二（工業薬品販売）生活、産業排水処理をHBC懸垂微生物接触法として薬品などを使用せず、好気性、嫌気性微生物による水処理法を開発し、推進中。

○広島 石田耕一郎（オフィス家具販売）廃棄処理対策として製品パーツに品質表示をし、分別廃棄を容易にしている。また、納入時の梱包資材は持ち帰りを実施。

○熊本菊陽 後藤道雄（建築）山林保護のため、あらゆる角度から間伐材の使用を推進。丸太、複合合板、単板、ログハウス、河川浄化（木炭）、木酢液（防虫、防臭、防腐剤として）など。

○えびの 満窪敏夫（山林コンサルタント）各小、中学の協力を得て、地域内の各河川支流の汚染実態を定期的に調査、押領司勲会員（市議）に報告、市議会を通じて行政の協力を得た。

○佐世保南 古谷敏治（環境測定）環境アセスメント（大気質、水質、騒音、振動など）、海洋調査、環境保全機器・システムの研究開発などにより、自然と生物環境を守るための判断資料の作成と適格な情報の提供。